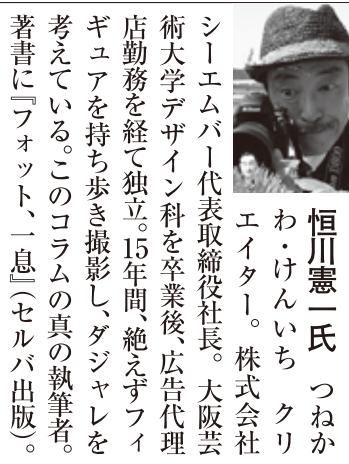


Mr. フィギュア 本誌の表紙に登場した一見あやしい、どこか可愛い、中年男性。愛犬チャーチルとはいつも一緒。その正体は、実在するビジネスマン恒川憲二氏をモデルに作られたフィギュア。月刊正論の表紙とこのコラムで、厳しく優しく、ダジャレをオシャレに織り交ぜた温かいメッセージを、読者のみなさまに届けている。



恒川憲一氏 つかわ・けんいち クリエイター。株式会社シェエムバー代表取締役社長。大阪芸術大学デザイン科を卒業後、広告代理店勤務を経て独立。15年間、絶えずフィギュアを持ち歩き撮影し、ダジャレを考えている。このコラムの真の執筆者。著書に『フォット、一息』(セルバ出版)。

だ。秘密が公にされると世界中からあなたこそ私の父と名乗る人が200人を越え夫婦を驚かせた。ロンドンのリバプール・ストリート駅には助かつた子供達の記念像があり、クマのパディントン物語の誕生にも影響を与えていた。こんな愛と勇気の英雄的な話なら妻にバレても問題はないのである。小生も、「パパも偉かったのね」と賞賛される偉業をこつそり残そう、その場合ちゃんと見つけてね。

ここでチョコの話もチョコット！

表紙の『人、Mr. フィギュア

今月の一言

秘密が、バレンタインデー



2月といえばバレンタインデー。もうチョコをもらつてドキドキすることもなく、義理チョコの返しも結構気を使うし、でも全く貰えないのも寂しいし……などお思いでは？ そこで万が一、本命チョコをいただくようなドラマのような出来事が起きたらどうしますよう♥ 「会社の引き出しにこつそりしまつて賞味期限が過ぎて食べれなかつたらどうしよう」などと、悩んで自宅に持ち帰り、妻から「へえ、こんなお洒落なチョコ、誰にもらつたの？」などと上手くカマをかけられ、もごもごしてると鋭い妻の術中にはまり、更にそんな時はよそよそしい態度になりがちで、どんどん逃げ場がなくなり気がつけば白状していた：嗚呼悲劇の『バレンタインデー』。となりかねません。

同じ妻に見つかった話でも、こちちは歴史に残る高潔な実話。昨

年映画でも公開された『ニコラス・ウインントンと669人の子どもたち』。結婚して40年も経つて妻が屋根裏で夫の過去の行いを物語る驚くべきものを見つけたの大ハズレ。実はそれは1938年のシンドラーと呼ばれたニコラスがユダヤの子供達を脱出させたкиンダートランスポーツポート（子供救済輸送）の情報、1冊のスクラップブックなのだ。

彼は、なぜ今まで妻に言わなかつたのかと聞かれた時、「夫が妻に言わないことなどたくさんあるよ」と英國紳士らしくジョークを交えて答えたという。なかなか渋い！ 実は言わなかつた理由は、もつと多くの子供達を助けることが出来なかつた罪悪感からのように

日本最初のチョコは風月堂総本家5代目1878年発売の「貯古齢糖」。バレンタインの歴史は1936年神戸モロゾフ製菓説から、メリーチョコ、森永、伊勢丹など諸説あるが、1968年ソニー創業者盛田昭夫氏がソニープラザでチョコを贈る流行をしかけたのは興味深い。男性がもらうのは日本と韓国くらいで、イギリスは逆チョコで男が贈るらしい。

チョコといえばギブミーチョコレートを想起する諸氏も多いと思

いますが、戦時中あんなに憎んでいた米兵に、日本の子供達もチョコをくれるとあつという間になついてしまつたようだ。実際、12歳の少女が盲腸炎の祖母をリヤカーで病院に運ぶ道中、通りかかった米兵がチョコを投げてくれたなどだ。しかしこのチョコは占領下、親睦のきっかけに貢献したようだ。しかし日本の国家予算の3分の1をアメリカが使い、その費用で作られたというから何とも複雑ではあります。いずれにせよ諸兄、ココアします。いざれにせよ諸兄、ココアします。いざれにせよ諸兄、ココアします。いざれにせよ諸兄、ココアします。

つきり家庭へスイーツな愛を注ぎ、ショコラ辺の甘い誘惑にとろけて「バレンタインデー」にならぬよう、くれぐれもご用心。割れチョコ、我れに帰らずでは、洒落にもなりません（洒落ですが）。

P.S. Mr. フィギュアがなんとスマホの漫画になりました。アプリX O Yをダウンロード！